

この辺の見て歩く記

【仮称・弁慶の石】

【旧京街道周辺】

【山口地区唯一の道標】

やしろ町あれこれ見聞記

伝説の人『法道仙人』

## この辺の見て歩く記【仮称・弁慶の石】

やしろ台を出て、国道372号線を篠山方面へ歩いて15分程行くと、右手に14名の武者が戦っている姿を、くりぬいたコンクリート塀のモニュメントがある。これは三草山合戦のありさまを表わしている。そこから更に20m程進むと、右手山の裾に子牛が横たわったほどの石があり、御幣が数本立てかけて有るのが見える。一見変哲のない石と思われるが、これには次の二つの説がある由緒ある石なのである。

石の中央右寄りに、こぶし大の窪みが有る。

鎌倉時代の豪傑、かの有名な武蔵坊弁慶が三草山の頂上から頭上高く持ち上げ、麓めがけて放り投げたときに出来た<窪み>という説と、薙刀の柄の先でエイ！と突いたときに出来た<窪み>という説がある。

初めの説にはどうも無理がある。と言うのは、いくら力自慢の弁慶でも1000kg位の大石を持ち上げることは不可能だろう。やはり後説の方がなんとなく現実に近い？ 彼弁慶は薙刀の使い手であることは、京の五条大橋で牛若丸を相手に振り回している絵が立証？している。が、しかしここでは相手の方が強かったので負けてしまい、結局家来になってしまったのだが……

この地は牛若丸こと源義経が寿永3年（1184年）2月5日（新暦では3月25日）の深夜、山口に宿営する平資盛を襲撃して打ち負かしたという三草山合戦のあった所なので、いろいろな話があるらしい。

義経の愛馬の蹄の跡が残っていると、（これは未確認だが）戦死者の霊が彷徨っていると。そういうこともあって、毎年1月と9月に国宝朝光寺から僧侶に来てもらって弔ってもらい、併せて村の五穀豊穰、家内安全を祈願してもらっている。御幣はその時のものである。

源義経率いる一千騎が小野原（今の今田町）から山口までの約12km途中には険しい山々が連なっているが、義経軍は、沿道の本々や家々に容赦なく放火して行軍の明かりとし、みるみる侵攻。一方的に攻めつづした。

平家軍も二千騎あまりいたのだが、戦はおそらく明日だろうし、睡眠も大切だ、と眠りこけていた。そこを奇襲されたのだから簡単に敗北した。（当時は就寝中や食事、風呂の時間には攻めない、という戦いのルールがあったらしい）

史実にはいろいろな説があるもので、その日は二日続きの雨で家や山野への放火が可能だったかどうか。はっきりしているのは、源氏が大勝し、義経が伝奇的英雄としての本格的な第一歩を踏み出していくこと。しかし資盛もかなりの武将で義経と比べ、互角以上の実戦経験があった。結局は闇討ちにあったからか？だが既成のルールの裏をかく。それこそが伝説化した義経の軍事的才能の核をなしているということである。……というお話……

<山口と馬瀬の長老に聞いた話と4年前の神戸新聞の記事を参考にした。>

## この辺の見て歩く記【旧京街道周辺】

やしろ台を出て山口地区に入り東西に伸びた道路が旧京街道である。

平行に走る国道372号線が出来るまでは乗合自動車を通り、西山勝志さん宅付近に停留所があった。昔は一里塚があり松の木が一本残っていたそうである

そこから少し西へ行くと右手に土塀に囲まれた小さな墓地がある。ここは山口部落のお墓であり、中に入ってみると平成7年没100歳の人、昭和43年没89歳、そのほか80歳以上の方々のお墓が10程ある。この地は気候・食べ物・水などが良くて長寿の村と思われる。また古くは文久2年(1862)天保4年(1833)享保5(1720)のお墓も在り、また宝篋印塔もある。墓地の奥に小さい祠があり、ここには弘法大師空海、即ちお大師さんが祭られている。従って毎月21日(18日も)には当番の人がお墓の掃除とお供えをしておられる。この祠の内側白壁右面に鉛筆で書かれた落書がある。大正4年7月23日福岡県……住所氏名もはっきりと残っている。約90年前の落書きである。なお国道372号線を渡り昭和池方面に行く途中右手にある墓地も同じく山口部落のお墓で昔はここで土葬していたそうである。墓地の入口左手に六地藏、正面には大きな板碑があり上部には梵字、中央右側に寛政12年(1800)と刻まれている。

元の道に戻り墓地から約50m西に歩くと右へ行く農道があり入っていくと右手に奥のほうまで数10mにわたって石積みされた昔の岩の様なものが見られるが、これは昔JR加古川線の線路の敷石に使用するために採掘したときの残石だそうである。

元に戻り(株)藤原組のすぐ西の右手上方に高さ2m程の石碑がある。

【軍人田開墾記念】と刻まれ裏面には発起人として明治43年8名の方の名前、そして大正15年8月に建立した人の名前が30人刻まれている。これは明治40年頃在郷軍人の方々が街道と三草川の間土地を田として開墾されたことに対するの記念碑とのことである。

この記念碑から西へ約20m行くと右手の大きな岩の中程に高さ50cm位の磨崖仏があり花などが供えられている。室町時代とか鎌倉時代の作といわれている。そのすぐ西側の高さ1m弱の石にも立像と坐像の二体の仏が彫られている。その裏には藤の古木があり4月下旬から5月にかけて美しい花を咲かせている。

更に西へ10分程歩くと、やしろ台の人が借りておられる農園がある。その近くの中村家の駐車場の入り口付近に高さ150cm位の大きな石碑・道標が二つあり【左ほっけ山】【右滝野光明寺・善導大師道・是より一里十丁】と刻まれている。ほっけ山とは加西市にある西国三十三カ所のうちの第26番札所法華山一乗寺のことである。滝野光明寺は滝野町にある新西国28番、播磨西国18番観音霊場の五峰山光明寺(ごぶさんこうみょうじ)のことである。

(注、善導大師とは唐の人で中国浄土教の大成者であり、日本に一幅しかない

自画像が光明寺境内にある塔頭大慈院に奉納されている。この自画像は江戸時代衆庶の信仰を集めたといわれる。従って光明寺・善導大師道と記されていると考えられる。)

そこから数10m先の右側に元県会議員の中村敏明邸がある。大変立派なもので母屋・離れ・倉・塀に至るまで全ての屋根が銅版製で葺かれている。新築時はさぞ美しかっただろうと思われる。

山口地区にある橋から数えて五つ目が昭和橋で次が新大阪橋で次が大阪橋と命名されている。その大阪橋の袂に火の見櫓があり【上福田村第二部消防組】と右から左に書かれた社町消防団上三草分団の倉庫がある。その左手に道標があり【すく大坂 弘化二巳年四月建之(1845) 西国同行中、すくほっけ山 五里、すくきよ水 三里、すくたか郡】と刻まれている。“すく”とは古語でまっすぐのことで、きよ水とは社町内にある西国三十三カ所の第25番札所御嶽山清水寺のことである。ちなみに西国の最西端は姫路市にある第27番札所書写山圓教寺である。(注、“すくたか郡”とは、まっすぐの方向が多可郡、「現在の黒田庄町・中町・八千代町・加美町」であることを示しているのではない。多可とは平安時代から呼ばれていたという。また大阪橋とはこの道標の“すく大坂”から命名されたと思われる。)

この大阪橋の西にあるのが国際学習塾の正面の陣屋橋である。学習塾の入口左に【三草藩陣屋跡】の由緒が刻まれた石碑がある。譜代一万石の三草藩丹羽氏の陣屋跡である。少し戻り北側の角に大正15年4月建立の忠魂碑があり10m程行くと右手の茂みの中に和銅稲荷社がある。延享3年(1746)からこの地にあるとのことである。境内の左手に大きい水鉢と自然石で出来た細長い手水鉢がある。

稲荷社のすぐ奥の左側右手に社町指定有形文化財の【三草藩武家屋敷尾崎家住宅一棟】がある。土日祝の10～4時まで無料で一般公開している。江戸時代中期寛保2年(1742)、大目付30石の武家屋敷であるが敷地155坪、建坪49という立派なもので中間部屋まであるのには驚く。

陣屋橋のすぐ西にあるのが三草橋で県道144号西脇口吉川神戸線が通っている。橋の袂に道標が四つ建っている。【左ほっけ山 是ヨリ五里、北志ん町たきの天保二(1831)】(注、志ん町とは滝野町の鬨龍灘の近くにある新町を指すと思われる。江戸時代加古川舟運の中継地として滝の両岸の上滝野村と新町村が栄えたという。)【左きよ水】【福田村道路・・・】あとの一つは木製で朽ちているのではっきりと読めない。

144号線を西脇方面へ100m程歩くと左手に金網で囲まれた五輪塔が見える。これは【県指定文化財・中村家五輪塔】で総高さ1.28m、鎌倉時代の作だそうで管理が良く立派なものである。そこから15分程歩いた所、中国自動車道の北側の側道で日本臓器の東約400mの四つ角にある石段の上にも【社町指定文化財・石造五輪塔】がある。またここからは少し遠いが社病院の

東にある大久保運送の正門左の石段を下りると、ここにも大きな五輪塔と小さな五輪塔が並んでいる。右側にも高さ1 m程の石に彫られた仏の立像がある。

元に戻り三草橋を渡りすぐ右の道を西へ数分行くと右手に【孝女ふさ彰孝碑】がある。大きな石碑の最上部に右から“彰孝”と刻まれ右端に縦に孝行田碑・蘇峯徳富猪一郎題額（1863～1957）・・・その他漢文が刻まれている。大正11年4月に建立されている。左手にも石碑があり由緒が書かれているが、明治44年の国定修身書に記述されたとのことである。

そこから更に10分ほど西に歩くと、社町消防団・下三草分団の倉庫がありそこを右に曲がって行き中国自動車道の高架下をくぐり右へ曲がると大西団扇店があり、あと5分程行った所の四つ辻を渡ると、けんもつ呉服店・けんもつ不動産の看板のかかった家がある。その先の曲がり角に道標が二つあり【右いせ方・笹山古市、左ほっけ山】【右きよ水、左〇〇〇】と刻まれている。その100 m程先の右側に社町に残存する数少ない藁葺きの家が一軒ある。そこから150 m程行くと県道17号西脇三田線に当たる。その県道を横切り150 m程行くと橋があり、渡り切った左手に道標がある。珍らしく上部に30 cm位の仏の立像が彫られ【右ほっけ山・左浄どうじ 小田、左きよみず寺、弘化三丙年四月建立（1846）・施主藤右衛門】と刻まれている。

（注、“浄どうじ 小田”とは小野市にある極楽山浄土寺で小田は現在ある小田町のことではないかと思われる。）

そこから50 m程先の右手にお地藏さんがある。正面左側のは80 cm位でかなり古そうで補修がしてある。右側のは1 m位で昭和31年5月建立と刻まれている。そのすぐ右に小さな像が3体ある。そこから西の方へ10分程行くと“社”の地名の由来になった佐保神社がある。

——— 以上 ———

追記：数曾寺池について

江戸時代赤穂藩の、「とび領」が加東郡、加西市（旧加西郡）の一部にあった。四十七義士の一人、吉田忠左衛門が加東郡にある赤穂藩の領地200石の郡代であった。従ってこの数曾寺池も管理下にあったことになる。池の南端の東側（田中さん宅の10 m程南の道から少し入った空き地）の50 cm位の小さな石室に七福神の一つ毘沙門天があり、池の反対側には弁財天がある。この池から川に落ちる仮称数曾寺滝は落差も10 m程、幅も5 m以上あり雨上がりで水量が多い時は瀑音もすごく迫力がある。また春の桜、秋の柿の時期は美しい。

注、道標の文字も150年以上経っているので解読不能の箇所があったが○印及び空白とした。また「当て字」「変体仮名」「くずしがき」が使用されている箇所は現代の仮名・漢字で表わした。（推測による）

2003年7月 R. H

## 山口地区唯一の道標（みちしるべ）

平成17年7月初め、現在新築中のお大師さんのお堂の西側の曲がり角【昭和池入り口】の道標の左隣りに古い道標が設置された。

【右ほつけ山・左大深山くめ】と刻まれている。ほつけ山は加西市の法華山一乗寺である。大深山とは東条町松沢にある大深山東福寺（おぶかさんとうふくじ）のことである。県道564号東条社線を南に下がり県道75号小野藍本線を西に行くと小野市との境界がある。その川のすぐ手前の道を北の方向に数分行くと左手に道標がある。正面に【加東霊場・第七十五番・大深山東福寺】右面に【昭和六年秋 現住藤村隆】左面に【施主・北野・・・社・・・】と刻まれている。74年しか経っていないにも拘らずかなり風化されていて読めない力所がある。そこから数分奥へ行くと右手に【大深山東福寺】と書かれた大きなお寺の表札がある。そこから未舗装の道を100mほど奥へ行くと小さいが立派な山門があり入るとすぐ右手に小さな池があり真鯉・緋鯉が20匹ほど元気よく泳いでいる。その奥左手に福寿殿右手に大極殿があり何れも由緒が詳しく書かれている。その奥は住居となっている。こじんまりとしたお寺であるがなかなかいいお寺である。昔の人は信仰心が深く栄えたと聞く。

【東条町史】に記載されている本寺に関する部分のみを記す。

### 『法道仙人と神谷山の寺々』

「播磨から丹波へかけての寺院開基伝承のもう一つの流れは、法道仙人説である。法道は天竺（てんじく・インド）渡来の仙人で、白雉（はくち・7世紀）頃、播磨を中心に仏法を広めたという伝説上の僧である。天竺の靈鷲山（りょうじゅせん）で金剛摩尼法（こんごうまにのほう）を修得して秘術を身につけ、中国・朝鮮を経て法華山に飛来、ここを足場に播磨内に21か寺を建立したという。町域で法道開基と称するのは、神谷山禅瀧寺（栄枝）と大深山東福寺（松沢）である。・・・以下神谷山に関する部分は省略する・・・

大深山東福寺も白雉年間に法道開基と伝える。もと小田村（小野市）にあり、伽藍・結構壮大であったが中世の兵火に焼失、いつのころか現在地に移ったという。行基菩薩一刀三礼の作と伝える本尊十一面観音、および両脇土（不動明王・毘沙門天）はいずれも平安仏と鑑定されている。」

—— 以上 ——

### 後記

この道標は昭和60年に圃場整備（ほじょう）が行なわれた際、橋のたもと付近で発見されたらしい。その後住吉神社近くの用水路の上に放置されていたのを、今回区長の藤原忠一氏、前区長の大原藤吉氏が復元された。その行為に敬意を表します。上三草には沢山の道標があり「ほつけ山・きよみず・たきの」が多いが「大深山」は他所でも見たことがない、貴重な文化財である。

「おぶかさん」の読み方及び所在は教育委員会の森下氏に教えて頂いた。

平成17年（2005年）8月1日 初田稜二記

## やしろ町あれこれ見聞記

国道372号線を車で京都方面に走ると6～7分で最初の信号がある。左に行くとき、『やしろ鴨川の郷』だが、右へ曲がり県道311号上鴨川木津線を1km程行くと左手に【上鴨川住吉神社】がある。30段程の石段を上ると正面に国の重要文化財指定を受けた本殿がある。その前庭で毎年10月4日（宵祭）5日（本祭）には神事祭が行なわれるが、この祭は国の重要無形民族文化財の指定を受けている。この神事は厳格な世襲的宮座制度によって支えられている。この宮座に入ることが出来るのは、住吉神社氏子のなかで、この地に生まれた長男のみに限られるといわれている。祭り当日には露店も数軒出るが見物客は余り多くない。しかしアマチュアカメラマンが10数人撮影に来ているし、TV局も取材に来ている。先程の信号を京都方面に1km程行った所の左手に神山池があり、そこの四阿の傍らに少年2人が神事舞の一つ『田楽の舞』を舞っている像がある。

住吉神社から3km程行くと左手に西国三十三カ所の第25番札所、【御嶽山清水寺】（みたけさんきよみづでら）がある。入り口で入山料（¥300）を払って、曲がりくねった山道を3km程行くと駐車場に着く。標高552mからの眺望は素晴らしい。当寺境内で毎年春、行なわれる社町の「さくら祭り」には、吉本興業の若手芸人を数人呼んで漫才・落語・演歌などのショーを見せられている。また露店・出店などもあり大層賑わっている。当日は役場から送迎バスも出るし、入山料も無料である。1年前まではモデル撮影会も行なわれていた。桜の花の美しいのは、いうまでもない。

清水寺を下山し県道311号線を1km程戻り鴨川小学校前を南に県道313号平木東条線を走る。途中八重桜並木を通るが満開のときは見事である。東条湖おもちゃ王国の所を右に回り1km程行くとT字路に当たる、そこを右折し1.5km程行くと、右手に吉祥院と総持院とがあり、その先左側に【鹿野山朝光寺】の駐車場がある。

そこから緑に包まれた狭い参道を通るが、右側下には鹿野川のせせらぎ、その上流にある『つくばねの滝』の水音を聞いて歩いていると深山に来た様な感じがする。100m程で左手に50段の石段がある。上がっていくと仁王門があり、その先正面に国宝の本堂がある。右手に町指定文化財の多宝塔、その左手に重要文化財の鐘楼がある。また毎年5月5日に行なわれる鬼追踊は県指定重要無形民俗文化財とされている。本堂前に設置された舞台の上で翁1人と鬼方4人（赤・青・黒・黄）で演じられるが、松明を振りかざして踊る様は迫力がある。ここにはアマチュアカメラマンが30人以上来て一列目を占領している。見物客も200人以上は来ているし、露店も数軒出ていて大層賑わっている。

しかし、平常は閑散としていて静寂そのものである。国宝にも関わらず門も扉も無ければ、寺の人も誰も居なく完全に開放されている。国宝の本堂も昼間は扉が開いている。このようなことは大変珍しいので靴を脱いで入ってみる。

手前の外陣と奥側の内陣との境は格子戸と菱格子欄間によって区切られている。格子の角穴から中を見ると中央に須弥壇（しゅみだん）が見える。外陣の幅は約20m奥行きは約8mある。建物の周囲に50cm程の太い丸柱がある。

左側の入り口から数えて4番目の柱（外陣と内陣の境）一本だけ種類の異なる木が使用されている。人間はいくら念入りにしても、神様の様に完璧ではない、至りませんということの意味しているという。この柱は外側からの方がよく見えて材質が違うのがよくわかる。

本堂を出て鐘樓の右手を進むと西国三十三カ所巡りのミニチュアがある。滝の方から始まり仁王門を経て本堂の後ろをぐるりと回り鐘樓の左手を更に進む。

前述の滝が「加古川水の新100景」に選ばれた『つくばねの滝』である。この周辺にツクバネが多く自生しているのでそう呼ばれている。ツクバネはビャクダン科の植物で、果実の形が羽子板でつく羽根によく似ているので衝羽根と名付けられた。（大きさは半分以下だが形はそっくりである）全国的にも大変珍しく、社町の天然記念物に指定されて保護されている。したがって採種は出来ない。ただし地面に落ちているものについては容認されている。しかし発芽させることは非常に困難とのことである。この滝は落差10m以上もあり水量の多いときは、見応えがある。特に冬期、飛沫が凍って氷柱になっている時は美しい。滝壺から上を眺めるのが迫力あるが、上から下を見るのもいいが、滝に流れ込んでいる川は余りにも小さくて平凡なので幻滅するかもしれない。

駐車場を出て西へ進むと100m程の間は道幅が狭くて1台通行がやっとだがその後は広い。左にゴルフ場を見てまっすぐ行くと、道の両側に【播磨やしろ茶】の茶畑がある。毎年八十八夜には、かすりの着物にあかねだすき姿の、「ミスやしろ」による一番茶の摘みとりが行なわれる。以前は撮影会もあった。

この道を真っ直ぐ行き左へ曲がって更に進むと県道17号西脇三田線に当たる。左に曲がり三田方面に3km程進むと【東条町】と【やしろ桃園】の表示がある。左に入っていくと丘陵一帯に桃ノ木がある。5月の花の咲く時期は一面が桃色一色で見事な景観である。果実を取りやすくするために樹高を低くし、枝が広くなるように育てているので余計に美しく見える。なお人工受粉はしないが果実を立派に育てるために、年配の女性が花を間引いているが大変な作業である。道の両側の桃の花を見ながらぐるりと回っていくと、先ほどの県道17号線に行き当たる。

もう一度三田方面に進み東条町の表示の手前の道を右に曲がって行く。左手に黒い寒冷紗で覆ったハウスがあり【社しいたけ】と書かれている。そこを数100m行くと3年程前にオープンした【やしろの森公園】がある。ここは自然のままの地形を活かした公園で、夏休みの時期にはカブトムシ・クワガタムシ・セミ・トンボ・チョウなどが多く生息している。またビオトープ池や、ため池等があり最近見かけなくなったメダカが泳いでいる。しかし【まむし注意】の立て札があるので気をつける必要がある。



県道17号線を西方向へ行くと、“社町上中”の信号に当る。左折すると県道567号社滝野線に入る。次の信号“赤岸”を越え左手、米屋とジュンテンドーの間に【大悲山観音寺】がある。赤穂藩浅野氏は加東郡でも、とび領として24ヶ村あった。その内11ヶ村を寛文11年(1671)分知して家原村に陣屋を置いた分家(旗本)が家原浅野氏である。元禄14年(1701)江戸城中の刃傷事件による本藩の断絶にかかわりなく、7代200年にわたって幕末まで続いた。

弘化4年(1847)同浅野氏の祈願所観音寺境内に赤穂藩浅野四代の藩主と四十七士の供養墓碑が建立された。[赤岸]とは赤穂義士が訛ってアカギシといわれているとか。本堂の正面から左の方に進んでいくと、奥に47名の氏名と年齢が刻まれた墓石がある。

毎年12月14日には義士祭があり、境内右手にある、お堂の前庭で少年剣道大会が行なわれる。まず最初に高段者2名による真剣の型、1人で行なう真剣による居合い抜きが行なわれるが、なにしろ本物の日本刀を使用しているので本人も見物の方も緊張する。刀を鞘に納めるとき、誤って左手親指と人差し指の間を切って血が飛び散ることがあるという。模範演技の後は少年少女による剣道大会が行なわれる。全員剣道着・面・胴・籠手を着用し、竹刀で試合をするわけだが、屋外で行なうのでスニーカーを履いているのには、違和感を覚える。勿論試合は、お面!籠手!とか掛け声勇ましく一所懸命やっているのので、好感が持てるし、充分見応えがある。特に小学校低学年の豆剣士のは可愛い。父兄をはじめ応援している人も多い。また同日、社中学校の生徒によるミニマラソンも行なわれる。

平成11年度には「忠臣蔵ゆかりの地」の所在する全国の自治体が一同に集う【忠臣蔵サミット】が社町で開催された。

寺を出てジュンテンドーの前の道を行くとアーチがあり、上に英語で【ショッピング・アベニュー】下に【やしろの森】と書かれている。所謂、商店街で以前はメインストリートとして賑わっていたと思われる。1km程の距離だが両側には商店が続いている。しかし現在営業しているのは半数位か。新しいのでは神戸新聞北播総局、関西電力社営業所、社町商工会館、社町観光物産センター等で他は古い店が多い。自転車修理店が2軒もあるし、スポーツ用具店、ふとん、人形、洋品、本、おもちゃ、すし、酒、石材、饅頭、時計、薬局、印鑑・・・とにかく色々ある。御膳御料理・松葉旅館という、ひなびた情緒のある旅館もある。驚くのは100m程の間に写真館が2軒もあり、何れも相当古い。【写真のフジ】と【中尾写真館】という。しかも1km位の範囲で写真館・写真店があと3軒もある。

観音寺から200m程行った右手に、涌羅野山・慈眼寺・善龍院がある。ここは浅野氏の菩提所である。この境内から西に下りると四国八十八カ所巡りのミニチュアがある。その100m程先にも、同じ山号の持宝院がある。

ずっとその先の点滅式の信号を右折し、すぐ又右折すると、北播磨第一の大社といわれる【縣社佐保神社】がある。社町の町名は、当社の門前町として発展してきたことに由来する。毎年10月の第一日曜日の秋祭りには、御輿や化粧屋台が境内を練りまわり大変賑わう。門の手前右手に【社下組屋台蔵】と書かれた背の高い倉庫がある。瑞神門をくぐって中に入ると、能舞台があり、その先に拜殿、本殿とあり何れも古く見事なものである。境内左手には稻荷社から恵比須社、その他多くの小さい社がある。正月の初詣では多くの参拝客が訪れる。境内の左奥に恵比須社があるので、1月9日の宵えびす、10日の本えびす、があり賑わうが西宮や今宮にあるような11日の残り福は無い。また平常でも、お宮参りの人達をよく見かける。また、稻荷社の右隣りに神社には珍しい鐘楼があり、平成7年12月奉納と刻んだ梵鐘が下がっている。

元の道に戻り先に進むと右手に【社町立明治館】がある。明治12年郡役所として旧加東郡15ヶ町村を統轄したが、その拠点として「加東郡公会堂」が明治44年から大正元年にかけて建設された。日本の伝統的な建築様式に西洋の構造技術を取り入れ、和洋折衷の明治時代の特色を備えた貴重な構造物なので、老朽化した【旧加東郡公会堂】を後世に残すため平成5年修復し、【明治館】と名付けられた。一般公開しているが火曜日のみ休館。

明治館を出て南に下がり県道567号社滝野線の“松尾”の信号を小野方面に進み、すぐの信号の次の次の十字路を左に入り150m程行くと十字路があるが。その手前左側の民家に隣接した、お椀を伏せたような低い丘に樹木や竹が生い茂っているのが見える。これがこの地域最大の円墳で直径約40mの【松尾宝塚古墳】である。前方後円墳とする意見もあるというが。畑の畦道を通って古墳に上ってみると林の中で、しいたけを栽培しているのが見られる。

※古墳について：上三草古墳群として中一近世の墓を含んでいるらしいが約200基、吉馬古墳群は約100基、鹿野古墳群は約100基の大古墳群で、何れもほとんどが横穴式石室を埋葬施設としているという。（未確認）

元の567号を小野方面に数分走ると【平池公園】に着く。ここはハナショウブ、スイレン、ハスなど約2万株の水生植物が、四季おりおりの彩りをそえる公園である。とくに故大賀博士が2000年以上前の種子の発芽に成功させたという『古代ハス』とか『2000年ハス』とも呼ばれている【大賀ハス】が有名である。社町でも昭和58年に鳥取県農業試験場から譲り受けた種子を播種して育て、昭和60年に平池公園に定植したもので、全国で数カ所しか開花しておらず、非常に珍しく、貴重なものである。開花時にはバスツアーでの見学者も多い。早朝から開花の瞬間を撮影しようと、アマチュアカメラマンが30人程来ている。また、桜の開花時期もレンギョウ、ユキヤナギ、等が咲き乱れていて大変美しい。毎年7月下旬には【夏のフェスティバル】が開催され、浴衣姿の人達も多く、色々な催しがあり露店もたくさん出て大変賑わう。春にはハスの講習会があり、蓮根が1本づつ貰える。（但し大賀ハスは駄目）

やしろ台からもよく見える【三草山】は標高423.9m、清水東条湖県立自然公園の中にあり、三草山合戦で有名な山である。登山道は3ヶ所あり、三草コースは昭和池の下が登山口になっていて、2.4km約1時間。鹿野コースは、やしろ茶園の西側が登山口で、3km約2時間。畑コースは朝光寺の東側から北へ少し入ったところが登山口になっていて、1.3km約40分でここからが一番近い。何れも駐車場が完備されている。

1月1日はご来光登山、2～12月は第2日曜が月例登山日となっていて、頂上でスタンプ帳に押印してもらい、年間を通じて登山をした人には、達成賞が贈られる。

——— 以上 ———

#### 追記\*遺跡について\*

【家原・堂ノ元遺跡】国道175号線の信号“家原”の200m北西側にある町営家原団地（夢園温泉の近く）の建っているところにあった。1980年から1次調査が行なわれ最近では1996年8月に5次調査が行なわれ、平成9年2月に現地説明会が行なわれた。この遺跡は東西400m、南北300m、約12,000㎡に広がるものと考えられ、弥生時代前期後半（2100年前）から営まれ、加東郡域で水稻耕作が開始される最初の遺跡の一つである。構内からは壺・甕（かめ）・高坏（たかつき・昔、食物を盛るために用いた足のついた器）・鉢・器台などの土器が出土されている。竪穴住居址として、1辺4mの方形、直径13mの円形などが確認されていて、弥生時代後期の集落としては約30棟あまりが、あったのではないかとされている。

【藤田・一ノ谷遺跡】県道17号線の信号“藤田東口”から南に町道、福住上三草線を200m程行った左手の歩道の工事を行なうに当たり、平成13年1月調査が行なわれ、幅6m、深さ1.2mあまりの溝が見つかった。この溝からは、須恵器の坏・小皿、土師器の小皿・土鍋、中国製の青磁椀など土器類のほか、箸・曲物・櫛などの木製品や、松ボックリ、松葉、ウメの種などが出土されている。出土遺物は室町時代中頃、今から600年あまり前のものと推定され、今回の調査では、比較的完成品が多いことや、箸などの木製品が多く出土していることから、「まつり」が行なわれた後、投棄された可能性が考えられるという。

注：朝光寺の柱についての記述は、平成13年度の社町「ふるさとセミナー」講師、社町文化財保護審議会長・堀内和男氏の話による。

【参考文献など】兵庫県の歴史散歩、日本の古代遺跡「兵庫」

社町「ふるさとセミナー」資料、家原・堂ノ元遺跡の現地説明会資料  
広報やしろ、その他、各種観光ガイドマップ・パンフ等々……

2003年8月 R.H

## 伝説の人 『法道仙人』

播磨には数多くの古寺名刹があるが、それらの寺の開基といわれる人物に法道仙人の名が多く見受けられる。昔の高僧としては弘法大師、伝教大師が有名であるがこの人たちは別格で一般には、法然上人、性空上人とか呼ばれているが仙人と呼ばれているのは、この**法道**以外には見当たらない。仙人という称号に魅かれて**法道仙人**を調べてみた。いろいろな歴史の本に紹介されているが、『兵庫県の歴史散歩・下』に記載されているのが分かりやすく、纏まっていると思われるので、そのページを原文のまま写す。

【法道仙人は、法華山一乗寺を初め、加東郡の御嶽山清水寺など、播磨の多くの寺院を開いたとされている。鎌倉時代の仏教書である「元享釈書」（げんこうしゃくしょ）に、法道仙人の故事がある。法道はもとは天竺、つまりインドの人で、初め靈鷲山（りょうじゅせん）で金剛摩尼の法を修行していた。そのうち術を会得して、瞬時に十方に遊ぶことができ、またたちどころに元にかえられるようになった。あるとき、紫雲にのり、中国・朝鮮を経て日本に至り、印南郡法華山に下りた。このとき谷は五色に光り輝き、霊場のたたずまいがあったので、ここを居所とした。持物は、仏像・仏舎利・宝鉢のみであった。多聞天（たもんてん）や牛頭（ごず）天王も法道のために守護のやくをかけて出た。法道は千手宝鉢の法を得、常に宝鉢を飛ばして供え物を手に入れたので、人々は空鉢上人と呼んだという。「信貴山絵巻」の飛鉢の法であろう。

645（大化元）年、船師藤井という者が、米を満載して沖を通りかかった。法道はいつものように鉢を飛ばして供え物をこうた。藤井が拒絶すると、船の米はたちまち飛雁のように山中へ飛び去った。藤井は驚いて許しをこい、米は元に還ったが、1俵だけ加古川のほとりに落ち、ここを米墮（よねだ、いまの米田）と呼んだ。奇瑞により、勅願を得て伽藍が建立され、法道の所持品をも納めた。法華山一乗寺である。のち法道は天竺に帰ったという。

法道仙人は架空の人物なのか、モデルがあるのかは、興味深い。一説では聖武天皇の時代、大和の長谷寺の建立者で播磨の人徳道上人がモデルだという。しかし、法道開基を説く寺院は多数に上るから、モデルを確定しても事実としがたい。むしろ法道のあるグループが信仰の対象とし、この集団がその寺院と深い関係をもっていたとするほうが合理的である。印南郡の出身で、京都の陰陽師安部晴明（おんみょうしあべせいめい）と術比べをしたという芦屋道満は、法道から陰陽道を学んだという伝承があり、播磨国の陰陽道をよくする集団と法道仙人の間につながりがあるのではないかとする学説は、法道信仰のグループを垣間みせてくれる。】

—— 以上 ——

—— 法道仙人開基といわれている寺院 ——

加西市坂本町	法華山一乗寺 (天台宗)	白雉元	6 5 0
国正町	青嶺山奥山寺 (真言宗)	白雉元	6 5 0
河内町	蓬萊山普光寺 (天台宗)	白雉2	6 5 1
上万願寺町	有明山東光寺 (天台宗)	白雉2	6 5 1
網引町	如意山周遍寺 (真言宗)	白雉2	6 5 1
福居町	久斗山長円寺 (天台宗)		
山下町	田富山田福寺 (天台宗)	白雉元	6 5 0
社町平木	御嶽山清水寺 (天台宗)	推古3 5	6 2 7
畑	鹿野山朝光寺 (真言宗)	7世紀中頃	
上久米	日照山東光寺 (真言宗)		
社	涌羅野山慈眼寺・善龍院 (真言宗)		
滝野町下滝野	五峰山光明寺 (真言宗)	推古2	5 9 4
西脇市西田町	和田山西仙寺 (真言宗)	白雉2	6 5 1
坂本	柏谷山西林寺 (真言宗)	〃	
高松町	高松山長明寺 (真言宗)	〃	
黒田庄町黒田	庄林山莊嚴寺 (真言宗)	〃3	6 5 2
八千代町大和	柳山 楊柳寺 (天台宗)	白雉元~5	6 5 0~6 5 4
中野間	伊勢和山極楽寺 (天台宗)	白雉2	6 5 1
山南町谷川	竹林山常勝寺 (天台宗)	大化年間	6 4 5~6 5 0
市島町白豪寺	五台山白豪寺 (天台宗)	慶雲2	7 0 5
多利	妙高山神池寺 (天台宗)	養老2	7 1 8
篠山市今田	二老山和田寺 (天台宗)		
味間奥	松尾山文保寺 (天台宗)		
三木市別所町	鉾禮山正法寺 (真言宗)		
志染町大谷	大谷山伽耶院 (天台宗)	大化元	6 4 5
久留美	祝融山慈眼寺 (曹洞宗)	大化4	6 4 8
口吉川町	別墅山善祥寺 (真言宗)	白雉2	6 5 1
口吉川町	如意山蓮華寺 (真言宗)	大化元	6 4 5
大村	如意山金剛寺 (真言宗)	白雉2	6 5 1
東条町松沢	大深山東福寺 (真言宗)		
栄枝	神谷山神瀧寺 (真言宗)		
吉川町法光寺	湯河山法光寺 (真言宗)	白雉2	6 5 1
神崎町吉富	金楽山法楽寺 (真言宗)		
福崎町田口	七種山金剛城寺 (真言宗)		
小野市万勝寺町	畷川山万勝寺 (真言宗)		

中町西安田	吉祥山円満寺（真言宗）	大化5	649
奥中	福王山観音寺（真言宗）	神亀2	725
安坂	長坂山鳳凰寺（天台宗）	白雉元	650
加美町観音寺	日照山観音寺（真言宗）		

—— 文中の字句についての説明 ——

仙人・・・山中に住み、不老不死の法を修め、神通力をもつという想像上の理想人物。

奇瑞・・・（きずい）不思議なめでたいしるし。

多門天・・・毘沙門天（びしゃもんてん）四天王の一つ。怒りの形相で甲冑をまとう仏法守護神。我国では七福神の一つとされる。

牛頭天王・・・（ごずてんのう）からだは人で頭が牛の地獄の番人。

天台宗・・・大乘仏教の一宗派。六世紀ごろ中国で大成、平安初期に最澄（伝教大師）がわが国に伝えた。

真言宗・・・仏教の一宗派。空海（弘法大師）が中国から密教を伝えて開いたもの。大日如来を礼拝の根本とする。

（以上は旺文社の国語事典による）

印南郡・・・（いなみぐん）平安時代から明治初期まであり現在は加古川市・高砂市・姫路市となっている。

現在の加西市・西脇市は平安時代は賀茂、鎌倉時代から明治初期までは加西となっていた。

（日本の古代遺跡・兵庫南部による）

米墮・・・（よねだ）仙人の念誦仏（ねんじゅぶつ）である薬師如来を安置したお堂があって、土地の人びとの信仰を集めている所だった。そのご本尊の供物として仙人が落されたのであった。

以来この場所に米塚を建て、村は米が墜ちてきたことから米墮村と呼ばれるようになった。米塚は高砂市立米田小学校の東のさくら公園の近くに米田大明神としてある。

（高砂乱歩による）

—— 参考文献 ——

『兵庫県の歴史散歩・下』『日本の古代遺跡・兵庫南部』『播歳！東はりま』『高砂乱歩』『はりま伝説散歩』その他各市町史・観光ガイドマップなど。

—— あとがき ——

- 1) 『はりま伝説散歩』には16ページにわたって「空飛ぶ鉢と仙人と」という見出しで広範囲に紹介されている。法道仙人立像と高砂市の米塚の写真もあり、「播磨名所巡覧図会」（文化元年<1804>刊行）のなかの「法道飛鉢の奇事」の絵も載っていて面白い。
- 2) その本によると江戸時代初めにできた播磨西国33カ所では、1/3近くの寺院が法道仙人を開祖と仰いでいる。実は兵庫県内にはなんと約120もの法道仙人開基の寺があるという。（廃寺を含む）そのうち約70カ寺は播磨、それも東部の山岳地帯に密集している。10カ寺以上分布しているのは、加西・加東・多可・美嚰・氷上・多紀の6郡（明治29年「郡制」による郡）  
県外にも能登半島の石動山天平寺や大阪堺の法道寺（長福寺）などがあるという。  
また法道仙人の開いた寺は観音・不動明王・毘沙門天の三尊を祀るところが多いという。
- 3) 上記のように非常に多くの寺院があるので全て調べることは困難である。しかし前記参考文献等を基に現地を巡り39寺を調べ、寺院名・山号及び宗旨を列挙した。但し加美町の日照山観音寺は通行止めになっていて参拝出来なかった。尚この寺は無人とのことである。
- 4) 法道仙人が紫雲にのって日本にやってきたというくだりで、むかし子供の頃、漫画でよく見たことがある「西遊記」の主役の怪猿、孫呉空が筋斗雲（きんとうん）に乗って天空を翔けている姿が目につかんだ。

平成17年（2005年）10月21日

初田稜二記

平成18年（2006年）2月23日

一部改訂



内容の転載、引用については初田稜二様の了解を得ております